

名古屋記念病院は、 より良い病院作りを目指して 成長し続ける病院として 認定されました。

名古屋記念病院では、2013年12月に公益財団法人日本医療機能評価機構より、比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院として、病院機能評価の認定を受けました。

この評価機構が行う病院機能評価とは、医療を見つめる第三者の目として、病院を対象に組織全体の運営管理および提供される医療活動について中立的、科学的・専門的な見地から評価されます。

具体的には、次の4つの評価対象領域から構成される項目について、各専門領域(診療管理、看護管理、事務管理)の評価調査者がチームとなって当院に来られ、審査を行いました。

- 1 患者の視点にたった病院組織の基本的な姿勢について、安全確保や医療関連感染制御への取り組みなど患者中心の医療の推進。
- 2 病院組織として決められた事項が、診療・ケアにおいて確実に安全に行われる良質な医療の実践。
- 3 確実に安全な診療・ケアを行うに必要な機能が発揮される良質な医療の実践。
- 4 良質な医療を実践する基盤の理念達成に向けた組織運営。

病院機能評価により、一定の水

準を満たした病院は「認定病院」となります。認定病院は、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供するように日常的に努力している病院とされています。

名古屋記念病院は、2003年12月に初めて認定病院となり、5年後の2008年12月更新認定を経て、この度3回目の病院機能評価を受審し認定を受けました。

審査内容は前回と大きく変わり、新たな枠組みでの審査となりました。従来の訪問審査では、病棟にて評価項目に沿って一つひとつの診療・ケアについて評価されました。今回の審査では、病院(病棟)の代表的な症例の患者さんの診療録を参照しながら、その患者さんが外来に来院し、入院、退院に至るまでの実際の経過に沿って確認が行われ、より臨床現場の実態に合った評価が行われました。名古屋記念病院では、今回の受審にあたり受審の約1年前から各部門の長をメンバーとしたプロジェクトを立ち上げ、長谷川院長(受審当時は副院長)を中心にプロジェクト事務局が推進役となって計画的に準備を進めま



西元 千代 看護部長 長谷川 真司 院長 宮田 隆 事務部長

した。受審2か月前には、プロジェクト事務局が企画した本番の審査さながらの模擬審査を実施し、進捗状況の把握と課題の認識に努めました。日常業務の中、二日間にわたり多くの職員が模擬審査に携わることは、それ相応に大変ではありましたが、職員が一丸となり「医療の質の向上」という一つの目標を目指すことを再認識できましたので、本番の審査前に貴重な体験ができたと思います。このようにして臨んだ病院機能評価は、さまざまな成果をもたらしてくれました。自院の現状把握や各規程・マニュアルの整備等に取り組んだことが業務改善・質の向上につながりました。また、診療・ケアに対する審査は、プロセスを重視したより臨床に沿った内容であり、日常の病院医療について適切に評価されたと思います。

名古屋記念病院では、受審の準備とともにクオリティ・マネージャーの育成にも取り組んできました。日本医療機能評価機構が養成するクオリティ・マネージャーは、医療の質管理・評価に関する基本的な知識や応用、実践に必要なスキルを習得した医療の質管理実務責任者です。名古屋記念病院は、クオリティ・マネージャーを原動力として今後も自律的かつ継続的な医療の質改善活動が続けることができるよう努めていきたいと思っています。

名古屋記念病院 事務部長 宮田 隆

